

認定番号 11

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジマル	学名	<i>Ficus microcarpa</i> L.f.					
形状・寸法	樹高 17.5 m	胸高周囲 5.9 m	根本周囲 6.1 m	樹幹占有面積 361 m ²								
	枝下高 3.5 m	枝張 東 10.5 m 西 10.8 m	南 10.6 m 北 11.0 m	最大樹冠幅 18.8 m								
通称	上殿(イードン)のガジュマル		樹齢 200 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 ④ その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 (備考:与儀自治会所有)							
所在地	沖縄市与儀187			状況	1 単木 ② 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 ⑦ 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 ⑥ 名木 7 その他 8 なし				平均気温(°C)	16.4	17.9	19.5	19.8	22.9	27.0	
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 ④ 建物の間 ⑤ 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			(最寄りの7マス-カ)	風向	NNW	NNE	NNE	NNW	NE	SSW
土地傾斜		1 平坦(0~5) ② 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			地点:宮城島	月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	土壌	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			2013年	平均気温(°C)	28.5	29.2	27.9	24.8	20.7	16.8
基岩・母材					降水量(mm)	2.0	19.0	82.0	205.0	129.0	84.5	
地形	1 山地 2 丘陵地 ③ 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カスト 10 埋め立て地 ⑪ 海岸段丘 12 その他			潮風の影響	1 なし ② ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
	土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる ④ 埴土:ほとんど砂を感じない			日照条件	① 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良						
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 2 疎 ③ なし 低木 1 密生 2 疎 ③ なし			周辺樹木の影響	① なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))						
周辺樹木の状況				周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 ② 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし							
				周辺樹木との関係	1 影響なし ② 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている							

管理状況	1 柵 a 有 ③ 無 (有の場合の高さ m、材質() 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ③ 無 3 剪定 a 強 ③ 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ③ 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 ③ a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 ③ a 有 b 無 7 避雷針 a 有 ③ b 無 8 定期的な草刈・掃除 ③ a 有 b 無 9 その他										
過去の治療歴と内容											
故事来歴	1 無 2 信仰対象 ③ 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 ③ 無 5 いわれの内容 6 不明										
視認性	1 遠方からも目立つ ② 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)										
特記事項	1 動物生息 a 有 ③ 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 ③ 無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 ③ a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他										

地上部の衰退度判定（認定番号11）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.45

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壌硬度調査結果（認定番号 11）

測定位置	表層の土壌硬度	植栽基盤としての判定(硬さの表現)
認定木の東側	17.0	締まった
認定木の北側	19.5	締まった
認定木の西側	16.0	締まった
認定木の南側	17.0	締まった

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、土壌調査は実施されなかった。H28. 12. 16 に表層の土壌硬度のみ調査を実施し、その結果を上表に記載した。

※2 山中式土壌硬度計を使用し、表層の土壌硬度を測定した。

※3 各測定位置で 5 箇所測定し、その平均値を表層の土壌硬度として記載した。

※4 晴れの日が続いた後測定し、測定時土壌は乾燥していた。

※5 下表に「山中式-長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表」を示す。

山中式-長谷川式の土壌硬度試験の判定基準表

山中式土壌硬度計の硬度	長谷川式軟らか度 S 値(cm/drop)	植栽基盤としての判定	
		根の侵入の可否	硬さの表現
27.0 以上	0.7 以下	多くの根が侵入困難	固結
~24.0	0.7~1.0	根系発達に阻害有り	堅い
~20.0	1.0~1.5	根系発達に阻害樹種有り	締まった
~11.0	1.5~4.0	根系発達に阻害無し	軟らかい
11.0 以下	4.0 より大	根系発達に阻害無し 低支持力、乾燥のおそれあり	膨潤過ぎ

引用文献 植栽基盤調査報告書作成の手引き (Ver. 5. 3) 一般社団法人 日本造園建設業協会

認定番号 11

上殿(イードン)のガジュマル

部位	所見	対応
土壌	・踏圧による土壌の固結はあまりない。	・無し
根	・露出根は多い。踏圧による露出根の損傷、草刈機によると思われる露出根の損傷が多く見られ、一部腐朽している。	・露出根の保護策を検討する。
	・南側高さ約 2m で気根が切断されている。	・気根は可能な限り育成することが望ましい。
幹	・オオタニワタリ、マツバラ、ヒメイタビが着生している。	・無し
	・古い気根に新しい気根が巻きついていて、古い気根は腐朽しており、きのこ(西側 高さ約 3m)も見られた。	
	・南西の気根は 4ヶ所で地面に達し、肥大成長が始まっている。	・今後もこの気根は育成することが望ましい。
枝	・枯れ枝(北側、高さ約 3m)、枝折れ(西側、高さ 3m)、大枝折れ(北側、高さ 3m)に見られた。	・枯れ枝、枝折れの切除を検討する。
葉	・着葉量は中庸。	・無し
	・ミカンコナカイガラムシ、アオバハゴロモの幼虫吸汁痕が見られた。	・無し
備考	・樹勢は高い。 ・露出根の保護、気根の育成、枯れ枝・枝折れの切除を行うことが望ましい。	

※1 本認定木の健全度調査は H25 年度に実施されたが、「所見、対応」について記載されなかった。
 H28. 12. 16 に再調査を実施し上表の「所見、対応」を記載した。

